

遠隔教育 成功への道——
メリットは？選び方は？
比較すべき5つの項目を徹底解剖

LMSお助けガイド



目次

第一章

- LMSとは？
- 一般的なLMSの4つの機能
- LMSのメリット
- LMSの種類

第二章

- LMSを導入する前に比較すべき項目
- LMSの選び方

第三章

- LMSの導入方法
- LMSの連携パターン
- KnowledgeDeliverのご紹介



はじめに

LMSの利用が爆発的に増えています。新型コロナウイルスの影響でテレワークが推奨されたことがきっかけとなり、教育機関における“遠隔教育”や組織（企業・官公庁など）の“社員教育”にeラーニングを活用するケースがこれまで以上に増加したことが背景にあります。

しかしいざLMSを利用しようと思っても、システムは数多くあり、機能も様々、コンテンツも多岐にわたるため、「どの製品・サービスが自社・自校に合うのかわからない」という声をよく聞きます。

そこでデジタル・ナレッジでは、本資料を含むホワイトペーパーの資料にて、eラーニングの導入を検討されている、もしくはご利用中のeラーニングシステムの変更を検討されている組織・教育機関の皆さまに向けて、LMSの基礎知識や導入のポイントを分かり易く解説いたします。LMSの選定にお役立ていただきたいと思います。



第一章

～LMSの機能・メリット・種類～

LMS（学習管理システム）とは？

LMSはLearning Management Systemの略で、学習管理システムとも言われます。インターネットやパソコン/スマートフォンで学習を行うeラーニングを実施する際のベースとなるシステムで、多くのLMSでは受講者がログインして学習する受講機能、教員や管理者が受講履歴や成績管理を行う管理機能からなります。

eラーニングを提供するための根幹のシステムで、一般に「eラーニングシステム」や「eラーニングプラットフォーム」などと呼称されることもあります。通常はGoogle ChromeやSafari、Microsoft EdgeなどのWebブラウザを用いたWebサービスとして提供されます。



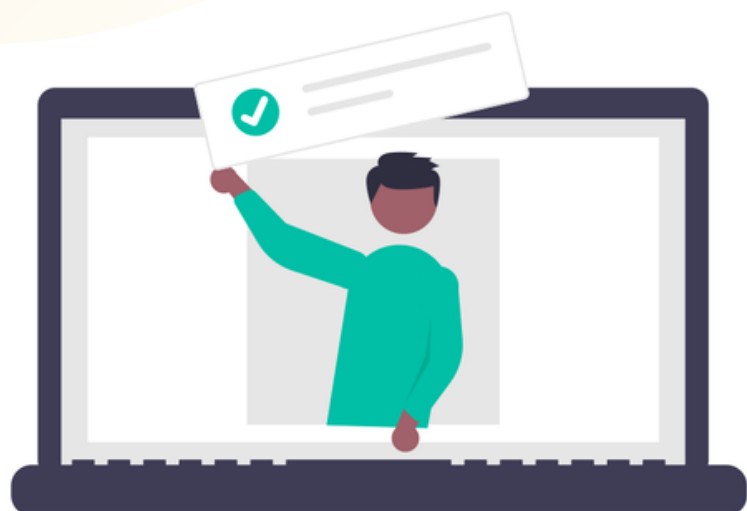
一般的な4つのLMS機能

様々な会社やオープンソースで数多くのLMSが提供されていますが、多くのLMSでは下記機能を有しています。



受講者機能

ログイン	ID/パスワードでログインする。
履修コース一覧	受講者が履修しているコースを一覧する。
履修登録	コースカタログから受講者が履修したいコースを選択する。
目次	コースの構造（章/単元など）を表示する。合わせて進捗率や学習時間などの履歴を表示する。
学習	動画やスライドなどを閲覧する。
テスト	テスト問題を出題し解答、正誤判定を自動で行う。
一斉テスト	同時刻の一定期間、一斉にテストを開催する。学校の定期試験や資格本試験に利用。
レポート	自由記述のテキストや課題で作成したファイルを送信し評価を受ける。
成績表示	学習の進捗やテストの得点などの情報を表示する。
質問	不明点を質問する。



一般的な4つのLMS機能



管理機能

受講者登録	氏名/ID/パスワード/メールアドレスなどを元に受講者を登録する。
履修登録	管理者が受講者にコースを受講できるよう割り当て、登録する。この際コースの開始日/終了日を学習期間として指定する。



指導機能

受講履歴閲覧	受講者の学習進捗や得点などの学習状況を確認する。
レポート管理	レポート出題したり、レポートの回収状況を確認し、採点/評価する。
質問管理	寄せられた質問を確認し、回答する。



教材管理機能

コース作成/編集	コースを作成したり、作成したコースを編集する。
コース構造作成/編集	章/単元などの情報を編集する。
学習素材割当	動画やテストや参考資料などの作成した学習コンテンツをコースに割り当てる。



LMSのメリット

LMSを利用することで、受講者、講師、管理者にとってさまざまなメリットが生まれます。

受講者・生徒のメリット

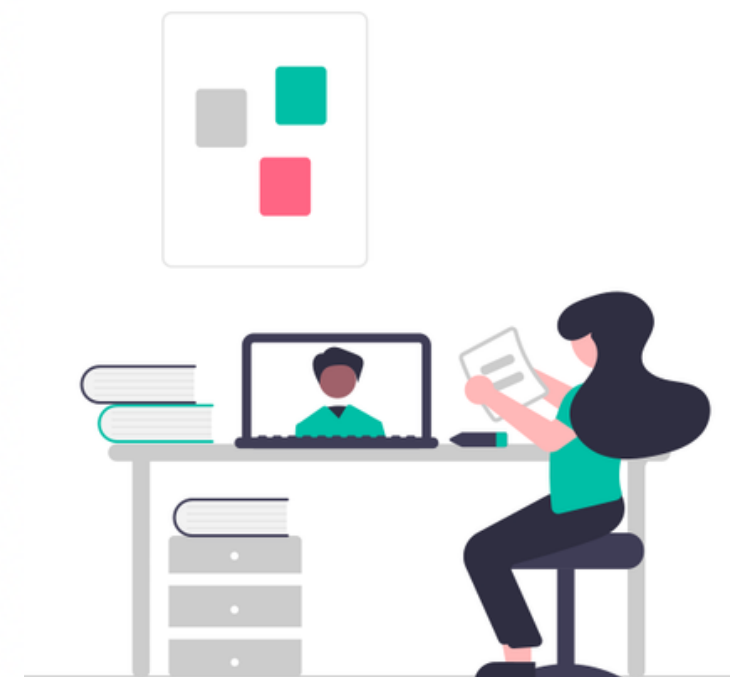
- 特別なプラグインは不要、いつでもどこでも最新の環境・教材で学習ができる。
- 正誤判定・採点の自動化でテスト結果が即座にわかる。
- 学習進捗が可視化されるので達成感があり、学習の見通しが立てやすい。
- 質問をする、発表をするなど学習者側からの能動的なアクションが可能。ディスカッションなど複数の学習者で学び合うこともできる。

講師・先生のメリット

- 教材の修正、アップデートが常時可能。最新の教材を手間なく学習者に一斉配信できる。
- テスト結果は自動採点・自動集計されるため、添削の手間がカットでき負担を軽減できる。
- 成績や間違った問題が一覧で表示・抽出できるため、一人ひとりに合った個別指導に生かすことができる。
- 講義や授業をコンテンツ化し蓄積していけるため、同じ講義を繰り返す必要がなくなり、その分コーチングや授業改善に時間を割ける。

管理者（教育担当者・研修担当者）のメリット

- 一からシステムを構築する必要がないため、コスト削減・工数短縮が実現できる。
- コンテンツ登録、履修者登録、受講者管理、コース割り当てまでWebブラウザ上で簡単に行える。
- すべての学習者の学習履歴・成績をLMSで一括管理できる。
- eラーニングだけでなく、集合教育の参加申込や出欠、受講管理もLMS上で一元管理できる。
- 蓄積した学習履歴を活用することで、学習者一人ひとりに最適なコースを提供できる。



LMSの種類

LMSには「オンプレミス型」と「クラウド型」の2種類があります。この2つはよく比較されるため、聞いたことがあるという方も多いかもしれません。この2つの大きな違いは「どのサーバーを利用するか」です。

オンプレミス型

オンプレミス型は、自社のサーバー内にLMSを構築し利用します。メリットとしては、カスタマイズ性に優れ、とても細かな部分まで柔軟に手を加えることができます。また、自社のネットワークを利用するため、セキュリティの安全性が高いのもポイントです。一方デメリットとしては、サーバーの準備から構築、運用まですべて導入企業側で行う必要があるため時間とコストがかかる点が挙げられます。ネットワーク障害などのトラブルも自社で対応しなければなりませんし、専門知識をもつ人材の確保が求められます。

クラウド型

クラウド型は、ベンダーが提供するクラウド上のサーバーに構築されているLMSを、インターネットを介して利用します。導入企業は自分たちでサーバーの用意などをする必要がないため、契約後、初期セットアップなどをすればすぐに使用開始できます。初期費用をかけることなく定額の利用料金だけで運用できるほか、システムのバージョンアップも自動で行われるため、導入や運用がしやすいという特徴があります。

特化型

特化型とは、文字通り特定の学習を提供・管理するのに適したシステムです。たとえば接客を行うサービス業に特化したLMS、マイクロラーニングに特化したLMS、タレントマネジメントに特化したLMSなど、さまざまなものがあります。機能を絞っている分シンプルで使いやすく、コストが抑えられるといったメリットがある一方、決められた用途以外の拡張性に乏しく細かい設定ができないといったデメリットがあります。

統合型

豊富な機能を搭載し、あらゆる研修や学習のプラットフォームとして活用できるのが統合型です。eラーニングコンテンツの配信だけでなく、集合研修も含めた研修全般の受講履歴や出欠確認などを一つのシステム上で管理・運用できるのが強みです。どのような機能を備えているかはLMSによって異なりますので、自社のニーズを念頭において機能をしっかりと比較する必要があります。

第二章

～LMSを導入する前に検討すべき項目・選び方～

LMSを導入する際に比較すべき5項目

LMSを導入する目的はさまざまです。まずはLMS導入で実現したい内容を明確にし、自社に必要な条件をピックアップしましょう。条件にあった候補を並べて比較に入ると効率的にLMSを選ぶことができます。ここでは、LMSを導入する際によく比較検討される項目をご紹介します。

1.教材作成は可能か？簡単か？動画教材に対応しているか？

2.マルチデバイス対応か？

3.導入実績は十分か？希望の導入形態があるか？

4.目的・用途に合った機能があるか？

カスタマイズが必要な場合、対応可能か？

5.サポートはあるか？



LMSの選び方

LMSを導入する際、どのような流れで進めていけばよいのでしょうか。ここでは多くのLMSの中から自社に最適なシステムを選ぶためのポイントもご紹介します。

LMSの選び方

社内要件の確認

最適なLMSを選ぶためにまず必要なのが社内要件の確認です。現在抱えている人材育成の課題、今後目指したい教育の方向性、そのために必要な機能や関係部署の要望などを、なるべく具体的に洗い出していきます。ここが明確になっているとLMSの選定がスムーズに進みます。

ベンダーから情報収集

まずはインターネットで検索して資料を取り寄せたり、ベンダーが主催するセミナーに参加することで業界動向やLMSの最新情報を把握しましょう。そのうえで、気になったベンダーと直接やりとりをするのがお勧めです。製品の特徴や機能、導入事例、サポート体制、価格など気になることは遠慮なく聞いてみましょう。ベンダーの営業によっては提案や知識に差がある場合もあり、判断の参考になると同時に自社との相性も確認できます。

企画立案～ベンダーの選定

収集した情報をもとに企画を立案し、予算を申請・確保します。このときに自社に必要な機能要件をリスト化しておくといいでしょう。ここまでにまとめた要件をベンダーに伝え、正式に提案を依頼します。個別に製品デモや提案内容の説明を受けたら、その内容をとりまとめ、社内で技術や価格などを総合的に考慮してベンダーを決定します。デジタル・ナレッジのお客様ではオリジナルのベンダー比較表をつくり、項目ごとの合計点で導入を決められる方も多くいらっしゃいます。

第三章

～LMSの導入方法・連携パターン～

LMSの導入方法

導入方法

ベンダーが決まったらいよいよ導入に向けた準備を始めます。実際に運用を開始するまでにさまざまな準備が必要です。

契約締結

まずはベンダーとの契約を締結します。契約書やさまざまな必要書類については各ベンダーが雛形を用意していますので依頼しましょう。

環境構築

次にLMSを利用するための環境構築を行います。デジタル・ナレッジのKnowledgeDeliverの場合はオールインワンパッケージのため、クラウド型の導入をご希望で特別なオプションやカスタマイズがない場合はごく短期間で環境構築が完了します。

運用準備

環境が整ったら、実際の運用を開始するための準備に入ります。管理者権限の付与やパスワードポリシーの設定など、教育研修を実施するために必要な運用設定を行います。自社でコンテンツを準備する場合は、このときまでに作成が完了しているのが望ましいです。テスト運用を経たら実際にユーザや教材を登録し、コースの割り当てなどを行います。ユーザが迷いなく操作できるようマニュアルを作成したり説明会を行うといった作業も必要となります。

運用開始

いよいよ運用開始です。ユーザに広く告知を行い、運用を開始します。運用開始直後は問い合わせが増える場合もありますので、ベンダーとも協力の上、サポート体制を整えておきましょう。

LMSの3つの連携パターン

人事データベース



企業内研修の場合、企業は所属する職員の情報
を人事データベースとして管理していることが
あります。LMSに登録する職員の氏名、社員番
号、メールアドレス、所属などのデータを人事
データベースから入手したり、LMSの学習結果
や成績情報を人事データベースに送付するこ
とがあります。

ポータルサイト



LMSの利便性を高めるためにポータルサイトと
LMSを連携することがあります。ポータルサイ
トからLMSのログイン画面にリンクを貼った
り、ポータルサイトにLMSのログイン画面を埋
め込むこともあります。ポータルサイトで個
人認証がなされていればLMSへのリンクをクリ
ックすると自動でLMSにログインさせることも
可能です。

決済サイト



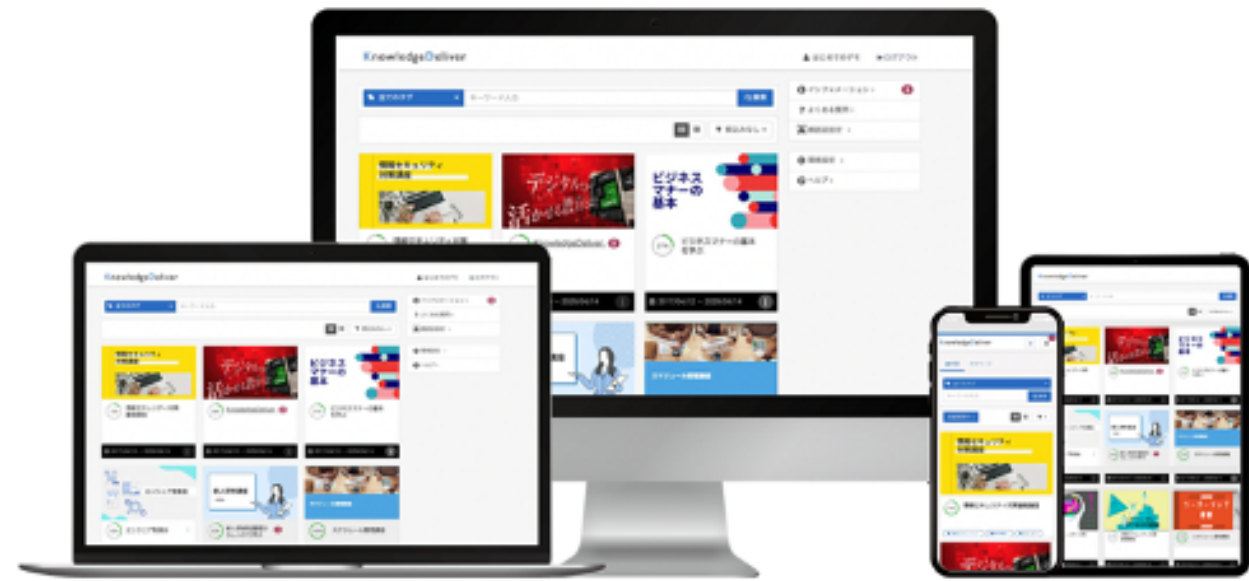
商用eラーニングの場合、受講者は受講したい
コースを選んで購入し学習サービスを受けま
す。この「購入」というプロセスをオンライン
で行う際にはお金をお支払いいただく決済処理
が必要となり、決済サイトのサービスを利用し
ます。この決済サイトとLMSを連動させ、決済
サイトで購入した方に受講に必要なアカウント
を発行し、そのアカウントでログインできるよ
うにしておく必要があります。

学習管理システム

『KnowledgeDeliver（ナレッジデリバー）』

eラーニングの全てをここに。

KnowledgeDeliver



学習・運用管理のみならず、Webベースで教材を手軽に作成・配信・管理可能な、国内有数の統合型eラーニングプラットフォーム。柔軟なカスタマイズ性及び拡張性を有し、高いレベルのeラーニングサービスをご利用いただけます。企業・官公庁・スクール・学校法人などへの導入実績は2000以上。

<https://www.digital-knowledge.co.jp/product/kd/>

学習管理システム

『KnowledgeDeLiver（ナレッジデリバー）』

<特長>

1. 映像教材など動的でわかり易い教材を脅威の手軽さで作成可能
2. マルチブラウザ・OS対応で、スマホ・タブレットやMACなど多種多様な学習スタイルに対応
3. 「使いやすさ」と「多機能性」の両方を追求した運用管理機能
4. ASP、クラウド、パッケージなど豊富な導入形態をご用意
5. 定期的なバージョンアップで新機能追加と最新クライアント環境に対応
6. ご要望に応じた柔軟なカスタマイズ対応
7. 数十万名様向けの大規模運用対応
8. 第三者機関による脆弱性診断・検査の定期受診による万全のセキュリティ対策
9. プライバシーマーク®、ASP・SAAS安全・信頼性情報開示認定済み
10. サポートセンタによる安心の運用サポート体制

学習管理システム

『KnowledgeDeliver（ナレッジデリバー）』

デジタル・ナレッジのLMS『KnowledgeDeliver』が選ばれる理由



これ一つで完結

eラーニングに必須の「教材作成」「学習」「運用管理」機能を標準搭載。他のツールをご用意いただく必要がありません。



マルチデバイス対応

PCはもちろん、スマートフォン、タブレットでも学べるマルチデバイス対応。スマホで動画配信も可能です。



年4回のバージョンアップ

お客様のニーズやトレンドに合わせた新機能追加、最新クライアント環境に対応。新しいLMSを提供し続けています。



2000以上の導入実績

企業・官公庁・医療機関など実績多数。売上拡大も効率化もコスト削減も、各分野に精通した専門部署にお任せください。



ご要望にあわせたカスタマイズ

課題や目的が違えば導入すべきeラーニングの形も異なります。お客様のご要望にあわせた柔軟なカスタマイズが強みです。



豊富な導入形態・大規模運用

ASP、オンプレミス、DKクラウド、パブリッククラウド等、豊富な導入形態をご用意。数十万名様向けの大規模運用にも対応。



安心の運用サポート

運用ご担当者様や受講者様向けにサポートセンタを設置。電話、メールによるサポートでより円滑な運用をサポートいたします。



個人情報保護・セキュリティ対策も万全

KnowledgeDeliverを基盤としたASPサービス「ナレッジデリ」では「ASP・SaaS安全・信頼性情報開示認定」を受けています。



デジタル・ナレッジ

お問い合わせ



<https://www.digital-knowledge.co.jp/>



infoadmin@d-k.jp



03-5846-2131